

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第1回 相模原市支援教育ネットワーク協議会				
事務局 (担当課)		学校教育課 電話042-769-8284(直通)				
開催日時		令和4年7月27日(水) 14時00分～16時00分				
開催場所		教育委員会室				
出席者	委員	6人(別紙のとおり)				
	その他	3人(別紙のとおり)				
	事務局	3人(仲村指導主事、松原指導主事、桑島看護師)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 挨拶 3 委員長・副委員長選出 4 議事 (1) 令和4年度支援教育ネットワーク協議会について (2) 第2次相模原市教育振興計画について (3) 支援コーディネーターの支援について (4) 学校サポーター制度の導入について (5) 協議「本市の支援教育の今後のあり方について」 5 閉会				

## 議 事 の 要 旨

### 1 開会

### 2 挨拶

### 3 委員長任命

相模原市支援教育ネットワーク協議会設置要綱第4条に従い、委員長の互選により、安藤委員を委員長として任命した。

### 4 議事

#### (1) 令和4年度支援教育ネットワーク協議会について

事務局より、支援教育ネットワーク協議会の役割について、資料に沿って説明した。

#### (2) 第2次相模原市教育振興計画について

事務局より、第2次相模原市教育振興計画及び令和4年度進行管理シートについて、資料に沿って説明した。

(安藤委員長)重点項目について、キャリア教育の推進等、比較的新しいものと、人的支援等これまで積み上げてきたものがある。それぞれについて、更なる充実をめざして委員の皆さんに意見を述べてほしい。

【目標 施策 項目】「全ての教育活動を通じたキャリア教育の推進」について

(大里委員)キャリア教育は、支援教育だけではなく通常の学級においても大切なもの。目の前の教育活動を漫然と行っていくのではなく、子どもの将来の自立を考えていくことは大切。相模原市の取組を評価したい。

(安藤委員長)人口減少やグローバル化、多様性の理解が必要な今日において、将来の自立に向けたキャリア教育の推進は、意味があるものである。

(学校教育課長)キャリア教育は、目の前の子どもの実態を踏まえ、将来の自立に向けて、付けさせたい力を明確にしていくもの。支援教育も同じことがいえる。

(安藤委員長)子どもの将来の自立に向けて、難しいことは重々承知しているが、相模原市立の高校、大学もつくってほしい。また、特別支援学校も。政令指定都市として、特別支援学校は、県からの移管という形でも実現していただきたい。

【目標 施策 項目】「県立特別支援学校との連携」について

(中里委員)本校も、中央支援学校の地域支援を積極的に活用している。相支援研にも、支援学校の先生を講師として招いている。支援学校は県立学校ではあるが、相模

原市との連携、協力ができていると考えており、たいへんありがたく思っている。

（安藤委員長）相模原市は、キャリア教育で中学校区を大切にしていると承知しているが、本来であれば高校と大学も必要に応じて入るべき。

【目標 施策 項目】「人的支援の充実」について

（安藤委員長）相模原市は、人的支援を熱心に行ってきた。これだけやっている自治体は、なかなかない。

（谷口委員）教員だけでは、きめ細かく支援ができない部分もある。人的支援について、本当に助かっている。人的支援を、さらに増やしてもらいたい。

（富川委員）特性のある子は、個人差が大きい。聴覚過敏や視覚過敏等々、すべてに担任が対応することに限界がある。また、教員も、体調不良や生活のキャリア上、休まざるを得ないこともある。補充がギリギリになっている現状もあるので、ぜひ教員の増員もお願いしたい。相模原市だけの問題ではなく、国も、子どもへの予算を増額してほしい。

（学校教育課長）今年度、非常勤介助員については、欠員からスタートした。人の配置について、厳しさが増している状況。引き続き、広報さがみはら等で幅広く募集していく。

（安藤委員長）非常勤介助員の継続年数は、どのくらいか。

（事務局）1校で5年まで更新が可能。15年間以上継続している方もいる。

（中里委員）本校は、支援教育支援員が2名配置されている。年度当初に支援が必要な子を洗い出すなど、効果的な活用ができるよう計画している。しかし、予定通りにならず、低学年で教室にいられず飛び出す子につく場合も多い。支援級に1年生が多く在籍しており、非常勤介助員に助けられている。人に支えられて、支援教育ができているので、今後も拡充をお願いしたいが、まずは、継続、現状維持をお願いしたい。

（安藤委員長）人的支援も大切にしながら、交換授業や学年での合同授業、ペア活動やグループ学習等、多様な教育形態を工夫していく必要がある。

【目標 施策 項目】「学びの場の整備」について

（青少年相談センター所長）通級指導教室として、きこえとことばの教室とサポートルームがある。今年度、相武台小学校と若草中学校を開設した。令和5年度に2校開設予定。各区に小中学校2校ずつとなる見込み。

（富川委員）サポートルームが近くにできて有り難いという声も聴いている。引き続き増やしてほしい。

【目標 施策 項目】「医療的ケア児に対する支援の充実」について

（富川委員）令和4年度の医療的ケア児は、9校11名。今年度より、教育委員会に常勤の看護師が配置され、これまで孤立しがちだった学校看護師が、学校間で情報連携できるようになった。昨年度に続いて、5年生の宿泊体験で、医療的ケアが実施できる見込み。6年の修学旅行についての議論も進めている。

(安藤委員長) 宿泊体験等で、主治医との連携はできているか。

(富川委員) 主治医も、医療的ケア児をたくさん見ているので、連携はできている。

(安藤委員長) 修学旅行先の病院と、主治医との連携はどうするか。

(富川委員) アレルギーの子が、日光の市民病院を一度受診してから、修学旅行へ行くことがあったが、負担が大きいのも事実。

【目標 施策 項目】「不登校・いじめの未然防止に向けた取組」について

(青少年相談センター所長) 学校の依頼を受け、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣研修や、ケース会議への参加をしている。カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを増員し、拡充を図っている。

(学校教育課長) いじめの未然防止として、先生方が子どもの発達の特徴を理解し、適切に初期対応をしていくことが重要。「発達障害のある子どもの理解と支援の手引き」を使って理解を図っている。支援の担当者レベルだけではなく、学校全体に広く周知していきたい。また、障害に対する理解を進めるために、「人権教育指導資料集」の改定も行っているので、併せて広く周知していく。

(教育センター所長) 年次研修の早い段階で、支援教育や人権教育についての内容を入れていく。時間も限られているので、先生方が自ら選択できる研修も充実させていく。具体的な相談については、指導主事が学校に訪問するが、オンデマンド研修も効果的に活用できるようにしたい。

(富川委員) 不登校について、登校はできるが教室に入れないうの子のために、別室登校ができるような学校もあると聞いている。そのような受け皿があれば、不登校も減っていく。

### (3) 支援教育コーディネーターへの支援について

事務局より、令和4年度の情報共有シートについて、資料に沿って説明した。

事務局より、第2回支援教育コーディネーター研修について、資料に沿って説明した。

(千谷委員) 昨年の支援コーディネーター研修の振り返りを読んだ。ソフトを使って、多く出ている言葉を調べてみた。まずは、「知る、気づく」という言葉が多くあった。支援コーディネーターも、まずは知るところから始まるということが、新鮮に思えた。その他、「連携、つなげる、つなぐ」とい言葉も多くあった。陽光園や特別支援学校等の関係機関とつながることは意義あること。「中学校区」という言葉も多くあった。今年度は、現状は集合で実施すると聞いている。それが叶わない時は、中学校区単位では対面し、全体ではオンラインなど、ハイブリッドで実施する方法も検討してほしい。

先日参加した自立支援協議会で「8050問題」が話題になっていたが、大人になって社会参加できてない人も少なくない。手帳をもっていない方が、福祉サービスを受ける例も多い。通常の学級に在籍している子が、発達特性なのか心理特性なのか、判断

することが難しい。

(富川委員) 知り合いの先生が、支援教育をずっとやってきたので、通常の学級での対応が難しくなくなり、特性のある子も伸ばせるようになった気がすると言っていた。支援教育に関する研修も大事だが、実地で学ぶことも大事だと思う。

#### (4) 学校サポーター制度の導入について

事務局より、学校サポーターについて、資料に沿って説明した。

(中里委員) 本校へ学校サポーターが入っており、本当に助かっている。通常の学級に支援が必要な子は少なくない。ミシンボランティアや読み聞かせボランティア等、学校には様々なボランティアが入っているが、学校サポーターは、発達サポート講座を受講しているのので、子どもへの関心も高く安心感がある。多くの個人情報も扱うので、学校では守秘義務の話をする必要がある。今後も拡大してほしい制度である。

(大里委員) 学生は、教員免許を取得するために支援教育についての授業を履修するので、知識は豊富だが経験は少ない。学生がボランティアへ行った際、支援の子を任せっぱなしにされたと聞いたことがある。学校サポーター制度もそのようにならないよう、効果的に活用してほしい。

(安藤委員長) 支援教育支援員は免許があり、学校サポーターは講座を受講。非常勤介助員は、免許がいない。まずは、介助員の制度を再検討すべき。免許や講座の受講が必要となれば、募集が更に難しくなるのも承知しているが、「すまいる365」については、新しいメンバーで毎年改定すべき。それが人材育成にもつながっていく。

(中里委員) 非常勤介助員について、「資格なし」となっているが、実際は教員免許がある人もいるし、経験豊富な人もいる。「すまいる365」の改定については、現状3年に1回を想定しているが、検討していきたい。

(富川委員) 改定もそうだが、ぜひ周知をしてほしい。

(安藤委員長) 紙で刷ったものを、全員に渡すことを検討してみたらどうか。

#### (5) 協議「本市の支援教育の今後のあり方について」

事務局より、本市の支援教育について、資料に沿って説明した。

(安藤委員長) 通常の学級に、支援の必要な子が多くいる。

(富川委員) 就学前に、集団になじめない等の発達課題に対して、巡回相談も行っている。しかし、その後の相談につながるかは、保護者の申請次第。3才6か月検診に加え、5歳児検診を導入することは、これまでも提案してきた。また、個人情報保護法の関係もあるのは分かるが、子ども庁の新設で、より一層切れ目ない子ども支援が重視される。

保育課等の関係課と情報連携してほしい。

(安藤委員長) 5歳児検診については、細田先生も継続して提案してきた。実現している自治体もあるが、相模原市の規模では難しいのが現状。

(大里委員) 20年程前、就学時前に知能検査をやっていたこともあったが、就学相談を受ける例は、ほとんどなかった。就学相談に行くと、支援級になってしまうという否定的な考え方もあった。現在は、よりよい教育が受けられるための就学相談に変わってきた。

(千谷委員) 近所のお兄さんやおじさんといった「ななめの関係」の経験が不足している。子どもの集団力が低下しているのではないか。特性のある子と出会ったときに、どうすれば良いか分からなくなってしまう。支援級の子が、通常の学級の居心地が良くないと、交流したがない。子どもだけではなく、先生方の集団力も低下しているのかもしれない。

(安藤委員長) 通常学級で、知的障害のないボーダーの子がひきこもりになることも。早期発見・早期教育できるのは、発達課題が明らかな子。「インクルーシブ教育」が、先生方の「区別」につながっていないか。支援学級の子ども増えているのもそうした区別が背景にあるのではないか。相模原市が、通常学級の支援に力を注いでいることを評価する。今後も継続してほしい。例えば、非常勤介助員を支援級ではなく、通常級にも配置することや、中学校段階では、特性のある子は限りなく、潜在化するので、小学校段階で、お金と人を重点的に投入する等。教育課程も柔軟にし、昼休みや中休み、校外学習等、様々な場面で学びの個別最適化を最大限めざしてほしい。

(富川委員) インクルーシブと個別最適化のバランスが、重要だと感じた。

(千谷委員) 多様性の理解は、忍耐が必要。忍耐しつつも、工夫する。そこに醍醐味がある。

(安藤委員長) 子どもは、忍耐がある。許容範囲も広い。社会全体が、許容範囲が狭くなっているのかもしれない。

(大里委員) 支援級は、今後も増えることが予想される。通常の学級の先生にも、支援教育への理解を一層進めてもらいたい。支援の必要な子がいても、学級経営できる先生の力量を身に付けてほしい。

(中里委員) 各学級に、発達に課題のある子がおり、先生方が努力していることもわかる。学級担任に支援の研修に参加してほしいが、出張も難しい。校内の研修を充実させていきたい。

(安藤委員長) 今後も、学びの個別最適化が実現できることを期待している。

## 令和4年度相模原市支援教育ネットワーク協議会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	安藤 正紀	学識経験者	玉川大学大学院 教育学研究科教授	出席
2	大里 朝彦	学識経験者	相模女子大学 子ども教育学科 特任教授	出席
3	富川 盛光	医師	相模原市医師会 理事おださが小児 アルビ-科院長	出席
4	千谷 史子	臨床心理士	こども広場 ワンダーステップ 所長	出席
5	片平 弘美	神奈川県立特別支援学校	神奈川県立 津久井養護学校学 校長	欠席
6	中里 雅子	市立小学校長会	相模原市立 向陽小学校長	出席
7	谷口 浩之	市立中学校長会	相模原市立 鶴野森中学校長	出席

<オブザーバー>

8	宮原 幸雄	教育局 学校教育部 教育センター	所長	出席
9	加藤 政義	教育局 学校教育部 青少年相談センター	所長	出席
10	松本 祥勝	教育局 学校教育部 学校教育課	課長	出席